

戦評用紙

平成 28 年度

北河内地区 新人大会

28年 12月 24日 時刻 9:30

女子 【準決勝】

東香里	53	〔 12-19 18- 9 11-12 12- 7 〕	47	庭窪
-----	----	--------------------------------------------	----	----

第1PD

東香里(白)④⑤⑥⑦⑧、庭窪(黒)④⑤⑥⑦⑧。ともにオールコートのマンツーマンでス

タート。開始直後、黒④の3Pで先制。対して城は⑤のリバウンドシュートから得点。城はアウトサイド、黒はインサイドと対照的なオフェンスでゲームを組み立てていく。白は早い展開から高確率でシュートが決まり、第1PDは19-12黒リードで終わる。

第2PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑥⑧⑬。黒ボールでスタート。

トレールプレーから⑧がファウルをもらい、2本とも沈める。白は第1PD同様、インサイドの⑦にボールを集め着実に加点していく。④⑤がオフェンスリバウンド、ルーズボールで奮闘し、残り3分で逆転。対する黒はフリースローを確実に決めていき、話されずについていく。第2PD 30-28、白リードで終了。

第3PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒④⑤⑥⑦⑧。白ボールでスタート。

⑦のゴール下プレーが決まる。黒は速いテンポから1on1を仕掛けていくが、なかなかシュートが決まらず我慢の展開が続く。残り4分、⑧のワンマン速攻、⑦のパスカットからのドライブで32-32の同点に追いつく。その後は、互いに3Pの入れ合いなどがあり、一進一退の攻防が続く、第3PD41-40、白リードで終了。

第4PD

白④⑤⑥⑦⑧、黒⑤⑥⑦⑧⑬。立ち上がりから、白⑦のインサイドでの面取りに対して、

黒⑬がフルフロントで守り、中にボールを入れさせない。互いにシュートが入らない展開が続くが、残り3分、黒⑤のオフェンスリバウンドからのゴール下、エンドスローインからのポストプレーにより、49-45の4点差となる。その後は、両チームとも1on1から攻撃を仕掛けるが、ファウルで止める状況が続く、フリースローで加点していく。最終的には53-47となり、東香里が決勝へと駒を進めた。

(戦評／長尾中：前田)

戦評用紙

平成 28 年度

北河内地区 新人大会

28年 12月 24日 時刻11:20

女子 【準決勝】

寝屋川三	32	$\left[\begin{array}{l} 6-13 \\ 8-4 \\ 4-16 \\ 14-18 \end{array} \right]$	51	枚方四
------	----	----------------------------------------------------------------------------	----	-----

第1PD	寝屋川三(白)④⑤⑥⑧⑬、枚方四(黄)④⑤⑥⑦⑧。黄④がジャンプボールを勝ち、黄色ボールでスタート。白⑧のリバウンドシュートで先制するが、黄④のジャンプシュートで同点にすると、その後、⑥⑤を中心に得点を重ねていく。逆に白はトラップDFに引っかかり、中でせめられないため3Pなど外のシュートが多くなり、リズムがつかめない。ピリオドラスト10秒でブロックショットから速攻に持ち込み、6-13で1P終了。白にとって、2PDにつながるいい流れであった。
第2PD	白ボールでスタートするが、黄のトラップが成功し、⑦がリバウンドシュートを決める。白はたまたずタイムアウト。タイムアウト明けは白は、トラップにかからなくなり、得点を重ねていく。逆に黄はDFでリズムをつかめなくなり、得点できない。14-17黄のリードで前半終了。

第3PD	3PD開始すぐに、白⑬がドライブで1点差に詰め寄るが、黄⑤⑥のドライブを止めることができず、どんどん点差が開く。黄⑦の3Pブザーびーたーで終わり33-18黄がリードを広げて3PD終了。
第4PD	黄⑥⑧が立て続けに速い攻めで得点を重ねる。白⑬のドライブ、⑤の3Pで追いかけるが、ゲーム終盤で余裕のでてきた黄は気持ちよくシュートを打ち51-32で黄が勝利。
(戦評／蹉跎中：植田)	

戦評用紙

平成 28 年度

北河内地区 新人大会

28年 12月 24日 時刻13:00

女子 【決勝】

東香里 30 $\left[\begin{array}{l} 4-8 \\ 8-12 \\ 6-9 \\ 12-14 \end{array} \right]$ 43 枚方四

第1PD

立ち上がりから四中⑥⑤のキレのあるドライブが光る。また、スクリーンからのインサイドへのせめ、オープンへの速い展開と、得点にならずとも、多彩なオフェンスを見せる。一方の東香里は⑦のセンターにボールを集め、攻撃の起点とするが、マッチアップする四中⑧がシュートブロックでそれを阻む。

第2PD

四中は外角のシュートが入らず、思うようにスコアが伸びないが、ガード陣の速いオールコート展開から緩急のある攻めを見せ、じわじわと差を広げる。東香里はチームの得点が伸びない中、④が4得点、2本のオフェンスリバウンドと光ったプレーを見せ、簡単には離されまいとするムードをつくる。

第3PD

四中はようやく④の3Pが決まり、スコアを広げようとする。しかし、東香里もついに⑦のポストプレーが連続で決まり、また⑦-⑤のインサイドアウトも決まり、リズムが出始める。⑦が負傷退場したが、逆にオフェンスの動きが良くなり、相手のDefをかき回し、4PDに向けくraitついでいく。

第4PD

調子が出始めた東香里は速攻も出て、残り5分で25-30と5点差まで詰め寄る。しかしこの流れを止めたのは四中の⑥。2本のドライブと3P、2分間で7得点の活躍。試合の行方を決めた。このゲームの収支、四中の脚力を活かしたDefのプレッシャーが相手を苦しめた。「攻撃のリズムの悪い時にはDefで頑張る」のお手本であろう。一方の東香里は出場選手全員がよく動き、今後の伸びが期待される試合であった。

(戦評/長尾西中:青木)